

# 大阪府自転車通行空間 10か年整備計画【概要版】

## 1. 計画の目的

- 「大阪府自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき自転車に係る道路交通環境の整備を進め、現道のさらなる自転車、歩行者の安全確保のための整備方針を定める。

## 2. これまでの取組(平成28年度～令和7年度)

- 整備期間 緊急3か年計画を含む10か年(平成28年度～令和7年度)
- 整備延長 約200km(現道の府管理道路)
- 整備方針 自転車関連事故や自転車交通量が多い区間や自転車指導啓発重点地区などを優先的に整備を実施

### 【効果検証】

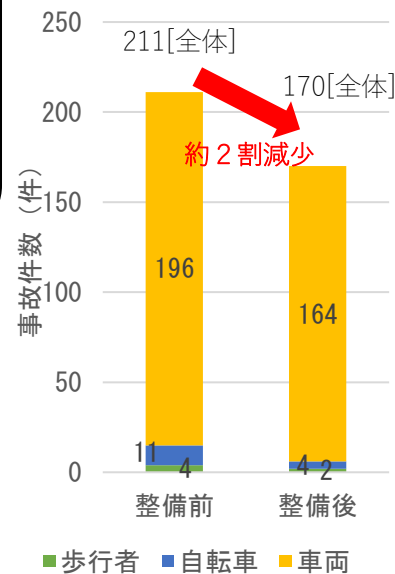
- これまで自転車通行空間を整備した区間を対象に、整備前後の自転車関連事故、自転車通行状況の分析を実施。

#### 【検証結果】

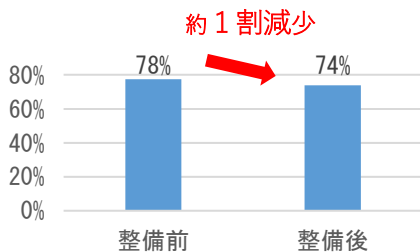
- 整備前後の自転車関連事故件数は全体で19%程度の減少
- 相手方別では歩行者50%、自転車63%、車両16%の減少
- 整備前後の歩道利用率は6%減少
- 整備前後の車道逆走率は40.3%減少

自転車通行空間の整備効果として、交通事故低減、自転車通行ルール遵守の効果が期待できる。

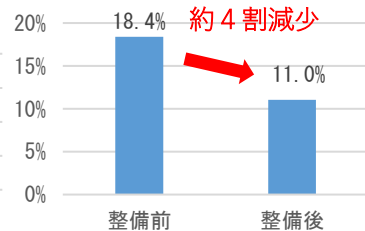
【整備前後の自転車事故】



【整備前後の歩道利用率】



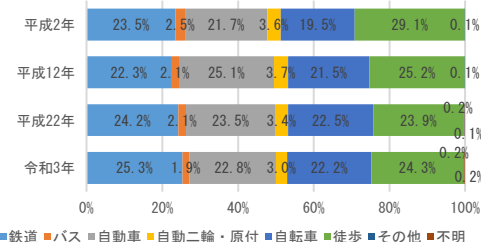
【整備前後の車道逆走率】



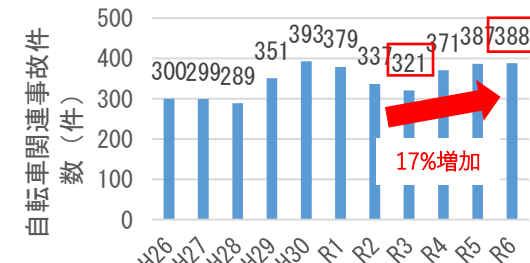
## 3. 現状の自転車を取り巻く環境

- 大阪府の自転車分担率は、約2割あり、鉄道、徒歩、自動車とともに主要な交通手段の一つとなっている。平成28年から令和6年にかけての大阪府の自転車関連事故は増加傾向にあり、また電動キックボードなど新しいモビリティも増えており、一層、自転車通行空間の整備が必要な状況にある。
- 自転車ネットワーク計画の策定している市町村も増加しており、より自転車利用環境整備の必要性が高まっている状況にある。

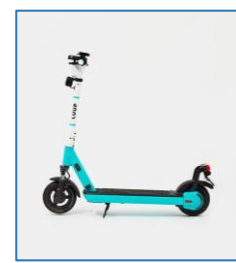
【大阪府の自転車利用割合】



【大阪府の自転車事故の推移(対歩行者)】



【電動キックボード】



昨今の自転車の移動手段としての重要性の高まりや市町村の自転車ネットワーク計画策定状況などを踏まえ、整備を一層推進し、自転車の利用環境の更なる充実が必要

## 4. 次期自転車通行空間整備計画について

- 計画期間 令和8年度～令和17年度
- 計画延長 約215km(現道の府管理道路)

### ■ 整備方針

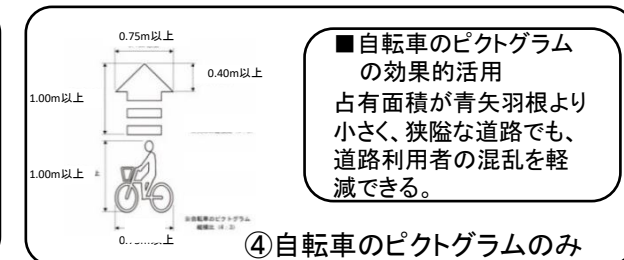
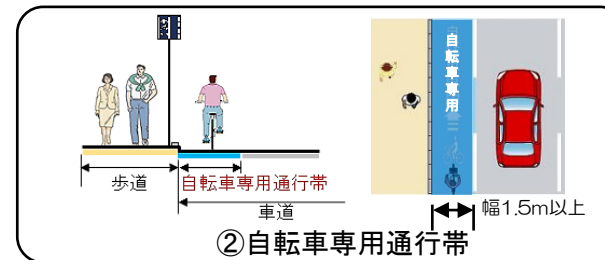
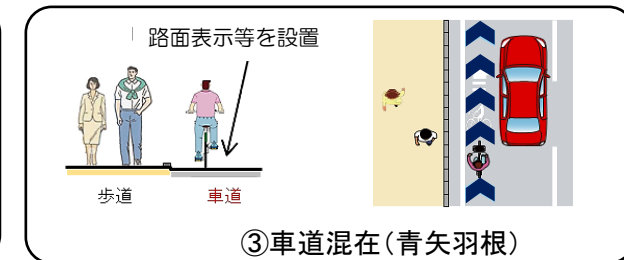
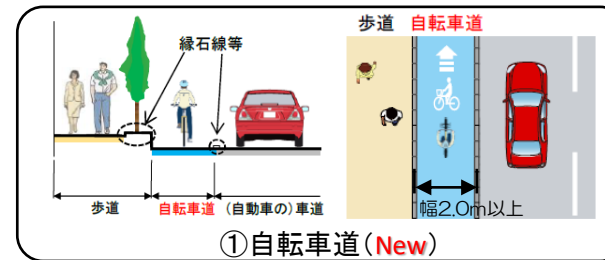
既存の自転車通行空間との連続性が図れる区間などを新たに追加し、更なる自転車通行空間の充実を図っていく。

### 【整備対象区間】

- 自転車関連事故が多い区間かつ自転車交通量が多い区間
- 警察が選定した自転車指導啓発重点地区および路線
- 市町村の自転車ネットワーク計画に位置付けられた府管理道路(New)
- 既存の自転車通行空間との連続性が図れる区間(New)

### ■ 整備形態

道路幅員が確保できる場合、自転車道の整備形態を定めた。



- 道路改良事業等(新設や現道の拡幅など)では、原則、自転車通行空間を確保していく。

### ■ 既設道路における空間再配分の考え方(自転車道・自転車専用通行帯)

- 路肩やゼブラ帯等の幅の縮小、省略により、自転車通行空間を創出する。

